

を中心に研究を進める予定である。

情報システムにおける意思決定支援

村 田 潔

1997年度においては主として文献研究と企業の聞き取り調査を中心に研究を行った。

そもそも本研究の課題として掲げている支援という行為自体が、明確に定義することの難しいものであるが、現在のところでは、

「行為者の意図を理解して、自らの知識に基づき、
行為者の意図する行為目標が促進・達成されるよう
に行為者に働き掛ける二次的行為」

として理解している。また、企業組織においては管理に代わる、あるいはそれを補完するものとして支援の重要性がこれから益々増大してくるであろうという認識を持っている。

情報システムが企業組織における意思決定をいかに支援しうるのかを考える場合、コンピュータベースの情報システム（CBIS）のみを念頭に置いたのではその効果を正しく把握することはできない。むしろ情報システム概念をより広くとり、企業の組織構造、制度、文化までも情報システムの構成要素として見なさなければならないのである。このことは企業の聞き取り調査（ソニー等の製品計画を中心にしたもの）からも、また情報システムの評価問題に関する考察（いわゆる、コンピュータの生産性パラドクス）からも言えることであり、有効な情報システム構築に関する最近の多くの研究者達の主張とも互いに符号するものである。

そこで、CBIS、企業の組織構造、組織制度、文化、理念等を含む重層的な構造体としての情報システム概念を提案し、それを「総体としての情報システム（IS as a Whole）」と名付けた。これについては1997年度オフィス・オートメーション学会秋季全国大会（大阪市立大学）において「テクニカルコンテキストとオーガニゼーションナルコンテキスト」という題名で報告し、現在、論文を執筆中である。

次年度においては以上の知見を踏まえつつ、研究課題に関するより深い理解を得られるよう、実験、調査